

山形県現代俳句協会会報

第23号
令和2年2月

良きことふたつ

山形県現代俳句協会会長 大類つとむ

ちよつとした書類などに元号を記すとき、思わず「平」と書いてしまいそうになるのは、未だ私ばかりではないように思います。また、新元号の令和になつて十か月ほど、異常なほどの一月の少雪は悲喜こもごものように見受けられます。

本年度の県現代俳協協は、何と言つても二つの良い事に集約されると思います。まず、ひとつ目は当会の設立会員でもあり、現副会長の畠山カツ子さんの高山樗牛賞の受賞という大きな慶びです。十一月二十五日の授賞式には私も出席させていただきました、凜とした空気の中に畠山さんの艶やかな緑の和服がとても印象的でした。この賞は、ご主人の畠山弘元会長も昭和六十一年度に受賞されており、その折りの祝賀会の賑やかな様子がなつかしく思い起こされます。一月のカツ子さんの祝賀会は、どうしても外せない先約があつて出席できず申し訳なくも残念でなりません。それにしても、ご夫婦おふたりの受賞は例のない快挙と言つてよいでしょう。今後ますますのご活躍とご健康をお祈り申し上げます。

もうひとつは、十一月二十一日に当会の主催で行われた宇多喜代子先生をお迎えしての「全句講

評講座」の開催です。急な日程でしたが、事業部の木嶋さん、会計の東海林さん、事務局の堀さんをはじめ多くの方々の力によつて、とても良い集いになつたと思つています。現俳協会員の枠を外してあちこちに声をかけて貰つたところ四十名を超す参加者となりました。会員外の参加者からも、感謝と満足の言葉を多数いただきました。私個人としては、ずつと以前よりこのような催しを持つ事こそ、当会の第一義ではないかと思つていたので、やつとほつとしていたところでした。ともあれ、これを機に更なる充実を目ざしていかなければなりません。皆様の積極的なご参加を改めてお願い申し上げます。

さて、皆さんはどのような俳句誌、俳句総合誌を購読しているでしょうか。ちよつと気づいたことですが、最近角川の『俳句』と毎日新聞社の『俳句α』の表紙が変わりました。『俳句』は二十年程、『俳句α』は創刊以来色様々なイラストたつぷりのポップなものでした。それが今は二誌共やや格調高く落ち着いた静かなものになりました。総合誌は読者の意向でつくるよりもその分野をリードしていくところが大きいと思われまふ。軽佻浮薄な句が多く見受けられた近年の俳句会ですが、やはり伝統と新しさのバランスを考慮したしつかりしたものに向かつていくのではないのでしょうか。

畠山カツ子さん

「高山樗牛賞」受賞

山形県現代俳句協会副会長の畠山カツ子さんが地方の文化の啓発向上に尽くした個人と団体に贈られる「高山樗牛賞」を受賞。畠山さんは俳句結社「爐」の設立、地元の俳句の指導などに尽力され、句集は「たまゆら」「三餘」などがあります。夫の弘さんも第二十九回（一九八六年度）の受賞者であり、ご夫婦での受賞となりました。

第六十二回（令和元年度）の授賞式は令和元年十一月二十五日、鶴岡市グランドエルサンで行われました。山形県現代俳句協会からは、大類つとむ会長他五名が参加しお祝いをしました。

受賞記念祝賀会は、令和二年一月十三日、鶴岡市新茶屋で行われ、地元の文芸愛好家の団体「らくがき倶

楽部」の会員、「爐」の関係者始め俳句愛好家などが集まり盛大にお祝いをしました。山形県現代俳句協会からは、会を代表して、鶴岡市在住の四名が参加しました。



現代俳句協会主催全句講評講座

11・22 霞城セントラル

1 送るかな秋夕焼けの霊山に 柏崎 青波

上句は作者の工夫。何を送るのか。夕焼？霊山？気配？俳句の半分は読み手にゆだねる。そこが俳句の不親切なところ。夕焼けの「け」の送り仮名はつけなくてもよい。※名詞や体言の送り仮名について、迷ったら季語に従う。

2 霊山へまいる夜鷹もありぬべし 柏崎 青波

「夜鷹」は夏の季語。「べし」は推量をまじえた断定。霊山は「りょうざん」と読むので、内容が分かる。

3 君のほほ一夜さすりて梅雨明ける 松浦 廣江

「君」が誰なのかは読み手が察すること。いろいろな解釈ができるので、詳しいことは作者に聞いたりしない。「て」は因果の「因」。叙述的になることが多いが使ってもよい。ただし、その下をくどくと言わないように。この句では、ほほをさすったことから結句で変換しているので、このままで良い。

4 夜桜や綿菓子色に染まる頬 松浦 廣江

「綿菓子色」：色の雰囲気。「夜桜」でない方がいかもしれないが・・・「綿菓子」と「夜桜」とでは似ているので、「綿菓子」に中心を置くと良いか。

5 しぐるるや羽州街道桑折宿 津田 よねこ

中と下に動詞が一つもない。俳句らしい句。江戸時代にも通用する。「しぐるる」は冬の雨のことだが「冬の雨」では句にならない。日本には雨の名前が多い。だから、雨の様子がよく分かる。

6 梨剥いて百人一首を始めから 津田 よねこ

「切れ」がない。あえて言えば「剥いて」で軽い切

れ。「て」の後に全く違う世界が来るところがよい。

7 煩惱も長寿の秘訣除夜の鐘 渡辺 竹女

おもしろい句。「煩惱」についてはあまり深く考えない方がいい。煩惱があるということとはぼけていない証拠。一つの悟り。

8 どの畦も家路となりし刈田かな 渡辺 竹女

「なりし」はなつてしまつたの意。「なりぬ」とすると結句に「かな」は使えない。「刈田かな」の部分の名詞にするのも一つの方法。

9 いつときは変身願望額の花 木嶋 玲子

「変身願望」と「額の花」似ているので、結句は別の語の方がいいかもしれない。「いつときの」にすれば、中・下はそのままで良い。

10 雪に雪重ねてとんと昔かな 木嶋 玲子

昔話によく出てくる雪。このままでよい。雪がいやと言いながら雪を待っている気持・・・雪見酒。

11 山寺は果てまでが蟬深く息する 高橋 敏子

「蟬」で切れる。深く息するのは作者。おもしろい句。このままでよい。「切る」とは説明を切ること。上五、下五のはみだしは許される。その時は、中七をきつちりとすると、字余りは気にならない。「や」のときは、下句を体言止めにするので形をよくする。古池や蛙飛び込む水の音

12 はやぶさよ宇宙から蛍見えますか 高橋 敏子

「はやぶさ」は人工衛星 「はやぶさよ」と「見えますか」：詩の世界なので重複して呼びかけてもよい。「宇宙」の読み方は「うちゅう」でもよい。ルビはあまり無理しないこと。

13 白梅や器の重き伊達料理 小林 政女

どっしりしている感じ。形のきちんとした句。格

調がある。

14 眼科医の巨大な目玉見せる夏 小林 政女

おもしろい句。「の」は主格。結句に「夏」とするのは、西東三鬼「算術の少年しのび泣ける夏」のように使われ始めた。夏は開放的。春と秋は物思わせる。他の季節を入れてみて落ち着くものを使う。

15 一切を覆いてゆけり秋出水 安部 拙郎

洪水はあまり良いことではないが、うまく句にしている。昨今の様子。

16 君までも逝くからつぼの栗の毬 安部 拙郎

「逝く」で切れる。空しい感じを栗の様子で表している。「までも」が効いている。

17 新米のむすびは口で解けてゆく 梅木 啓子

一本の俳句。新米のおいしさを詠んだ。

18 ねえちゃんはいじわるだったと赤まんま 梅木 啓子

「赤まんま」でいじわるが愛すべきものになる。「と」でいじわるが赤まんまに対応している。「ねえちゃん」という言い方も良い。幼いころのことを思い出している。

19 踏み鳴らす青春に和し黒川能 鳥羽しま子

「春」：二月の方が良い。馬場あき子さんはよく黒川能に通っていた。

20 山澄むや大樹の奥の風祭 鳥羽しま子

格調高い句。「風祭」：八月刈り入れ前の風を鎮める行事。

21 短日や厨にはずす首飾り 吉岡 志波

「厨」がよく効いている。「首飾り」は「首飾」でよい。助詞の大切さ。「厨で」とするとすぐく平凡。俳句の濁音について。「…が」を使うと散文的に

なる。「の」にしてみても合うようなら「の」を「が」でなければならぬもののみ「が」を使う。

22 葉鶏頭予防接種の腫れひかぬ 吉岡 志波

葉鶏頭と予防接種は何の関係もないが、作者が「葉鶏頭」を選んだことで気持ちをよく受けとめている。

23 栗の月湿りの空のひとり雲 橋 よう子

「ひとり雲」を「雲ひとつ」にするとうい。

24 冷やかに暮らし溶融消費税 橋 よう子

「冷やかに」…季語にならないこともあるので注意。「暮らしをとかす」とは? …… 原発の溶融とつながるのならこのままで良い。

25 新元号安寧祈る緑雨かな 古澤 蕙子

さわやかな新緑のころ。軽い意味の時事俳句として手柄あり。(No.24も)

26 秋澄める彩とりどり長寿かな 古澤 蕙子

一切の句。「彩とりどり」とは「長寿」に掛かる。ここまで歩いてきたのはとにかく良い事。

27 むらさきに山山山の秋夕日 高橋タキ子

「茜」を「むらさき」ととらえている。「山々々」とせずに「山山山」と重ねるのが良い。

28 新涼や切れ味の良きガムテープ 高橋タキ子

「新涼」と「切れ味の良き」が良くできている。

29 台風がすべてを奪ふ悲しさよ 白石佳鶴子

このままで良いが、「悲しさよ」を別の言葉で表すことを次の機会にチャレンジしてほしい。例えば「雲の色」。

30 陽のさして紅葉写す障子ごし 白石佳鶴子

「写す」は「映す」に。

31 黄水仙は使はぬ父なりき 井上 康子

分かりやすい句。黄水仙に思いを寄せて父のこ

とを詠む。

32 通園バス待つ間に一つ雪だるま 井上 康子

ほのぼのとした様子。小さな雪だるまができた。

33 朝顔のいたずら書のように咲く 阿部 貴美

「いたずら書き」がどのようなかは主観。虚子・ほととぎす・主観派。一遍は見た方がよい。

34 黄落期ついに男の首輪解く 阿部 貴美

「男」どんな男か? 「犬」としてあからさまにするのもよい。詩は類推・アナロジー。それらしいものを持つてきて表す。

35 草もみち行きも帰りも同じ猫 堀 尚子

分かりやすい句。「行きと帰りは別の猫」だと変。人生一大事でないようなことを詠むことが日本の俳句。

36 土に描くともだちの顔柿落葉 堀 尚子

「ともだち」がいい。素朴さ。「柿落葉」が効いている。

37 秋晴れの磐梯山の頭や鳥瞰す 阿部 雅子

大きい景を詠むことができている。何も無い空、海を詠むのは難しい。

38 里芋掘る義父の水車の出番なり 阿部 雅子

「里芋に義父の水車の出番かな」に。分かっていることは言わなくてもいい。里芋を掘らなければ出番もないから。

39 神の留守出会うこと無き二色ペン 東海林光代

誰かと誰かが出会わないことを暗に詠んでいる。面白い。

40 ひとり出て引つ込みつかず葱坊主 東海林光代

おもしろい句。「葱坊主」がよくできている。「ひとり」は作者自身か?

41 鉄骨の櫓組む音花の山 瀬野 史

風流でない鉄骨の櫓と桜。シンプル。分かりやすい。

42 藁ロール枕に刈田まどろみぬ 瀬野 史

刈田の擬人化。飛躍が良い。

43 杜鵑草飛ぶこと忘れ乱れ咲く 細川 房子

杜鵑草が咲いている様子。「飛ぶ」は名前の字からの連想。よくできている句。

44 白じらと夜明けのごときそばの花 細川 房子

「夜明けのごとき」…主観

45 秋しぐれ雀苦屋の軒を借り 小室 哲範

「借り」…本格川柳の止め方。川柳は人を詠んでいる。「秋しぐれ」でしっかり切れているので「借り」でよい。

46 丹精の唐茄子猿に抱へられ 小室 哲範

くやしさが出ている。

47 秋茜サンクチュアリの窓に群れ 小室 けい子

「秋茜」の様子。



講師の宇多喜代子先生を囲んで

48 右足のギブスの文字や冬ぬくし 小室けい子
「ギブスの文字」…「冬ぬくし」なので不自由だがあまり悲しくない。「あいにく」「退屈」ではない状態。俳句をして良かったこと。

49 病室のどのベッドにも青蜜柑 大類 響子
「青蜜柑」が良い。若々しい感じ。重態の人がいない病室。

50 この町の御宿ひとつ梅筵 大類 響子
形の良い句。「この町に」にすると「町」が前に出てくる。「この町の」で「宿」が前面に。

51 散華師のうしろ大きな紅葉山 大類つとむ
「うしろ大きな」が良い…「うしろに」とすると解説になる。

52 王冠の少年がゆく芒原 大類つとむ
おもしろい句。「王冠の少年」少年像が出ると良い。「が」…強い。

53 赤とんぼ最上川より湧き出づる 松田佳津江
「湧き出づる」…飛んで行ったことを表現している。作者のとらえ方。自然が平和。

54 菊壇酔へばやさしくなる父へ 松田佳津江
父に対する作者の気持ち。

【最後に】

○俳句は一人で作っていても上達しない。皆で句を客観的にみる機会を。

○俳句には形式が不自由だからある楽しさ。

○同じような句がひとつもない。

【質問に答えて】

Q 季語の選び方はどのようにしたらよいか。

A 歳時記を読むこと。平凡な季語で作ればよい。フィクション、何かに誘発されて作ることも。

句集紹介

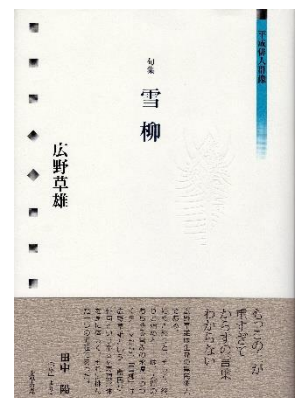
広野草雄句集『雪柳』

先頃、広野草雄氏の第二句集「雪柳」が届いた。装丁もさることながら、内容的にも立派な大冊である。氏は、私など足元にも及ばない口語自由律系の大先輩である。私が昭和四十五年に第一句集を出させてもらった時に、跋文をお願いした六名の中の一入であり、序文は第九回「野の文化賞」を受賞された故すずきゆきひと氏であった。思い起こせば、昭和三十五年頃からお世話になつて大先輩である。句集「雪柳」は、ご自身の生きてきた証であるだけでなく、何時の世も黙々と働き続けてきた農民達の叫びを代弁した句集でもある。句集のどの一句にも氏の真摯な心情が伺えるが、私が特に心打たれた作品を次に掲げる。

ひいてくる水もない 天の川流れる真下
人工衛星どうしたろう夜の水番無駄でした
農基法いいかげん 胡瓜巻きひげのぼす
コンバイン喚かせ 日本の米余るといふ
冬田に捨てた愚痴 烏拾つてくれまいか
寒九の雨の転作会議 結論なく
槽の火燃やし 説かれたプロレタリア俳句
転作失敗 雉は一目散に逃げればよい
貼り薬何枚も貼り 勤労感謝の日
北方領土還る日はいつ 波の華
時雨にもらった陽だ 玉葱植える
敗戦忌 米作れない畔草刈っている
どつかと雪 野良を癒しにきてくれた
吹き飛ばされてお前も俺も糞殻だ

◇編集後記

記録的な暖冬は、この後どう経過していくのだろうか。雪のない山河や日々の暮らしを、雪国の俳人達はどう表現しているのだろうか。
皆様のご協力で、充実した会報となったことに感謝いたします。 佐竹伸一



会報23号 令和二年 月発行
発行人 大類つとむ
発行所 山形県現代俳句協会
千九百九十四二二七
尾花沢市中町五二〇
千九百九十七〇〇四四
事務局 鶴岡市新海町二三一八
堀 尚子